

【国土交通省】平成27年度 地域を支える持続可能な物流ネットワークの構築に関するモデル事業

# 中山間集落のひと・もの輸送システム構築事業 — カリコボーズのホイホイ便プロジェクト —



宮崎県 西米良村

# 1. 西米良村の位置と概要

- 宮崎県の最西端、熊本県（球磨郡）境に位置
- 総面積271.51Km<sup>2</sup>の96%を急峻な山林が占める。
- 人口約1,000名、高齢化率約42%（若年者率約10%）

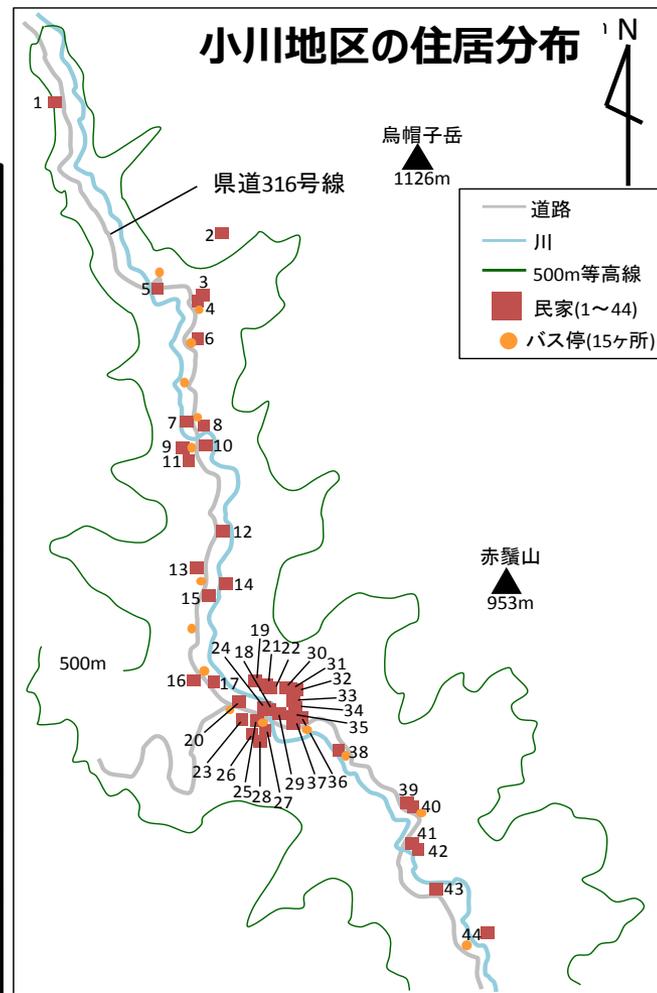
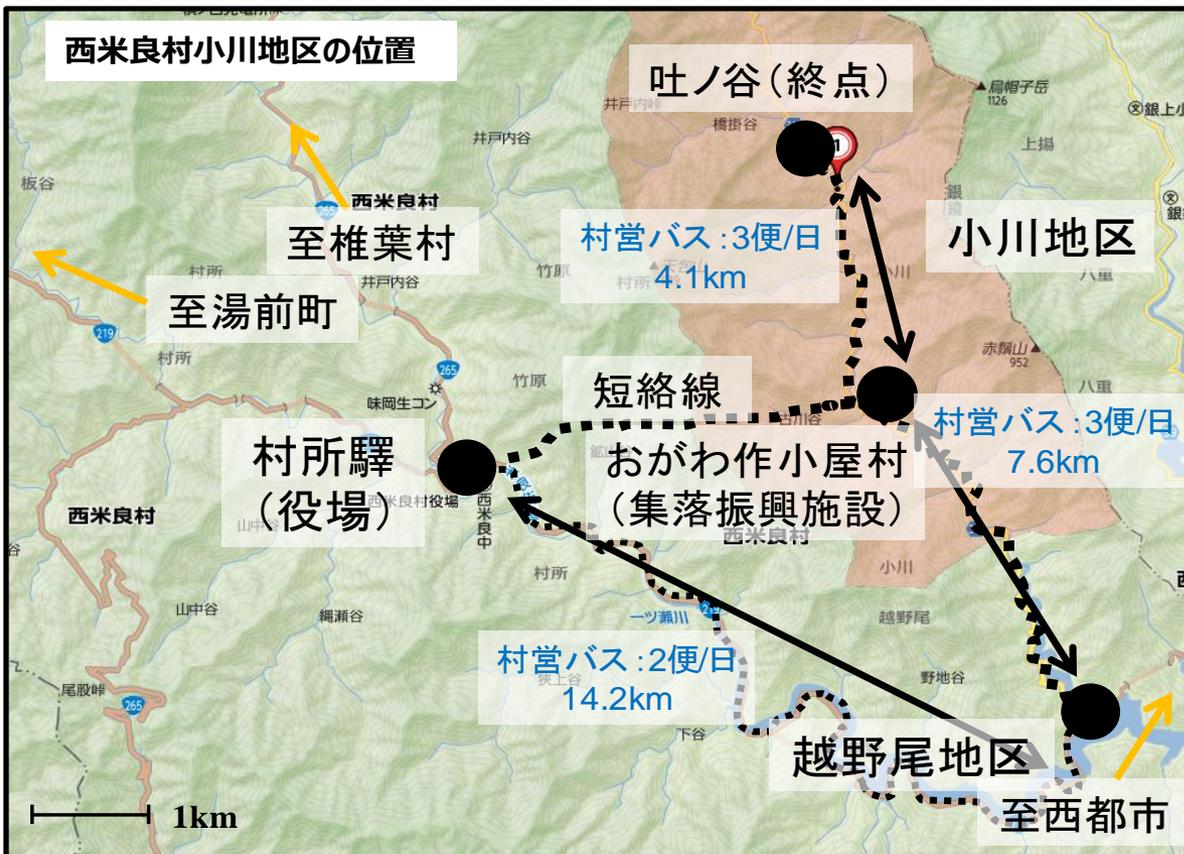


## 2. 小川地区(実証実験対象地域)の状況

- 身近な生活拠点(村中心部)から遠い地域(自家用車移動でも約30分)
- 生活用品店など買物できる場所も遠く、高齢化による移動手段の確保等が困難
- 自家用車を持たない住民のほとんどが近隣住民等の移送に依存

小川地区人口91人 / 世帯数57世帯

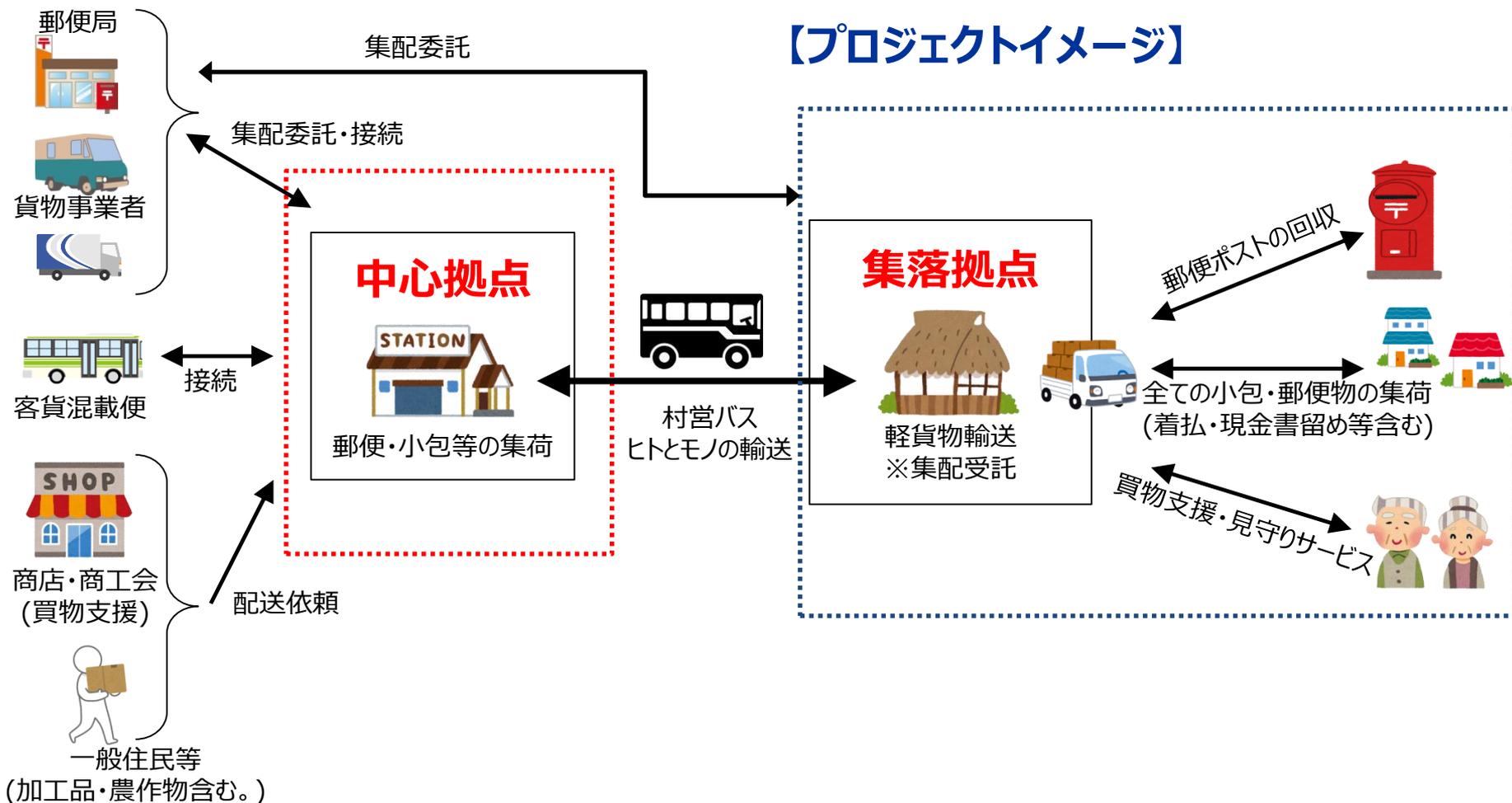
(平成27年12月31日現在住民基本台帳)



【村所—小川間の所要時間】路線バス利用：約40分

# 3. ホイホイ便プロジェクトの目的

- 持続可能な公共交通手段の確保と生活支援サービスの維持向上
- 村中心部まで運ばれる荷物を自家用有償旅客運送便(村営バス)を活用して混載輸送
- 集落拠点から各戸までの末端輸送を地域が担い、生活サービスと雇用を確保
- 西米良村総合戦略の事業としても位置付け





# 5. 協議会・実証実験のスキーム

【ホイホイ便プロジェクト協議会】※モデル事業実施主体



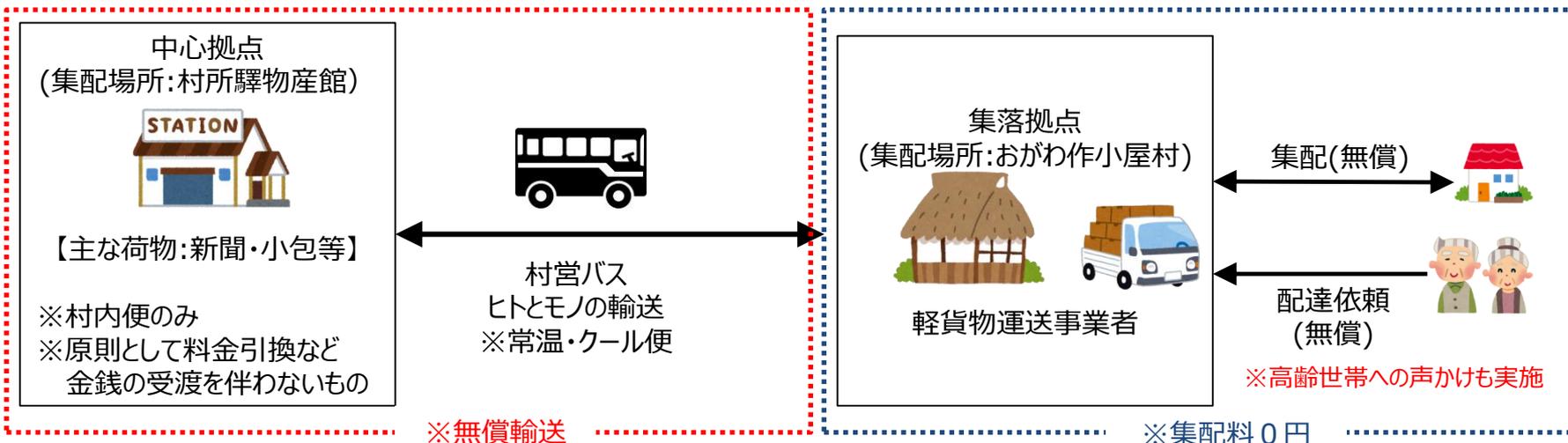
- 郵便、貨物事業、関係旅客事業者等に参加協力を要請
- 郵便事業及び各貨物事業の物量等を把握するため、個別に聞き取り調査（機密性に配慮）
- 各事業者の集配基準等の確認とすり合わせ（操作機器類・ユニフォーム・伝票・車両表示etc）
- 事業実施に係る料金の検討
- 現行法令上の課題と問題点の整理

などを協議

## 【実証実験スキーム】

※村内輸送に限定（村内便）

※実証実験区間における物量ニーズと各集配箇所における業務量・輸送課題等を把握



※試験運行は地域再生法に基づく自家用有償旅客運送の少量貨物輸送の特例を活用する予定であったが、手続きに長期間を要するため、関係機関と協議し無償運送とした。

## 6. 中心拠点と集落拠点の状況

### 【中心拠点：村所驛】

- バス待合所・観光物産館のほか、J A・商工会・三セク会社が集積された施設
- 今後、人や物が集まる場所としての機能向上が期待される。



### 【集落拠点：おがわ作小屋村】

- 自立自走の地域経営を目指し、地域住民で食堂や宿泊施設を運営。
- 年間約2万人の観光客を受け入れ、約1,500万円の地域経済効果をもたらしている。
- 今後は地域内サービスの向上も視野に入れた取り組みが期待される。



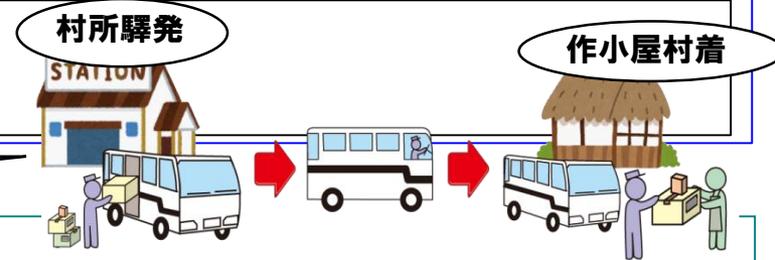


# 8-1. 実証実験の様子(中心拠点→集落拠点)

村所驛物産館での宅配物の発送 (受付5:00/11:10/16:30)



- 村所驛物産館で配達依頼者から宅配物を受け取る。
- 村所驛物産館で宅配物の重量を測定する。
- 村所驛物産館から村営バス(小川線)の乗務員が宅配物を受け取る。



村所驛からの貨客混載輸送(出発5:00/11:25/16:42)



- 村営バス(小川線)の乗務員が宅配物を村営バス(小川線)に積み込む。
- 村営バス(小川線)に宅配物を載せて、村所驛物産館から作小屋村に発送する。
- 村営バス(小川線)の乗務員が作小屋村の職員に宅配物を受け渡す。
- 作小屋村からの発送する宅配物を村営バス(小川線)の乗務員が受け取る。

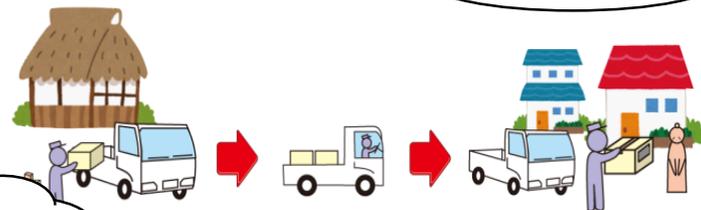
## 8-2. 実証実験の様子(集落拠点→各戸・集落拠点→中心拠点)

おがわ作小屋村から各戸への配送(引継6:00/12:10/17:30 配達8:30/15:00頃)



作小屋村発

各お宅へ配達



配達先が在宅の時は、  
直接荷物を渡して  
『声掛け』

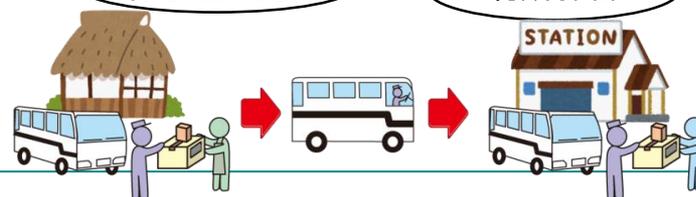
- 作小屋村の軽貨物車両に宅配物を積み替える。
- 作小屋村から各お宅へ宅配物を配達する。

作小屋村からの貨客混載輸送(引継14:40 村所驛着15:44)



作小屋村発

村所驛着

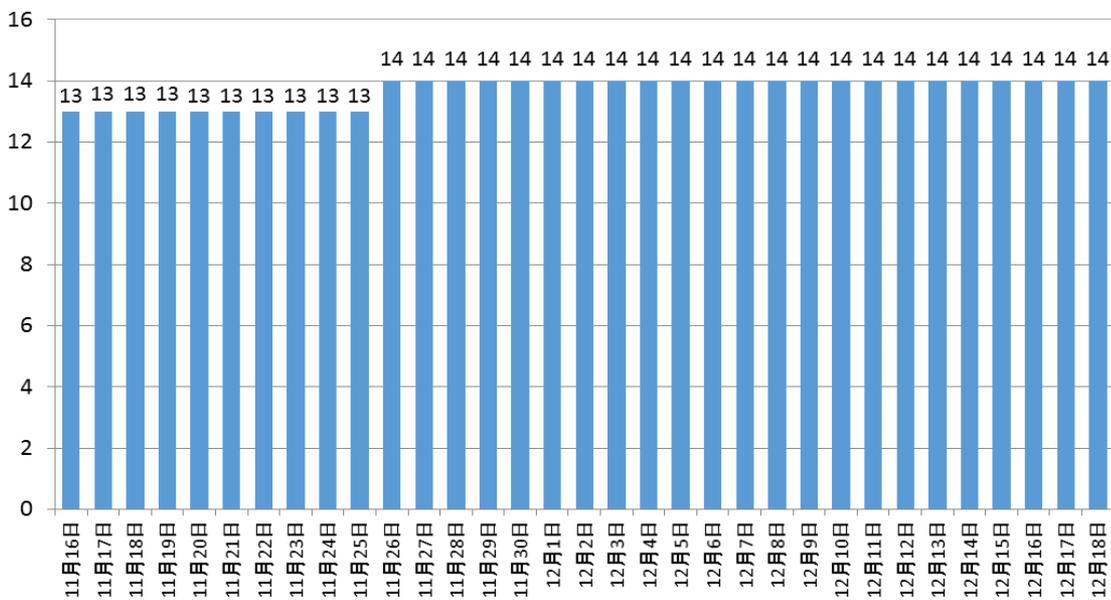


- 村営バス(小川線)の乗務員が作小屋村の職員から宅配物を受け取る。
- 村営バス(小川線)で村所驛物産館に宅配物を発送する。
- 村営バス(小川線)の乗務員が村所驛物産館の職員に宅配物を渡す。
- 村所驛物産館にて宅配物の受け取り確認を行う。

# 9. ホイホイ便で取り扱った物量の状況

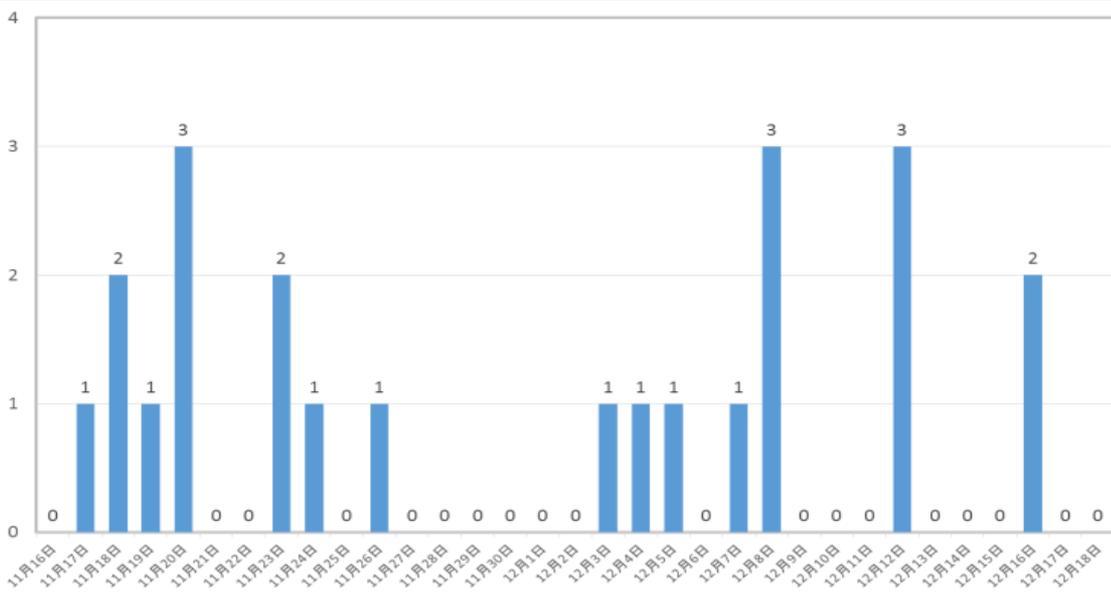
## (1) 新聞の配達数

- ・新聞の配達数は、11月16~25日が13部/日、それ以外の期間は14部/日。
- ・新聞配達は、郵便では配達されない日祝日も配達され最も好評であった。



## (2) 日付別宅配量(個数)

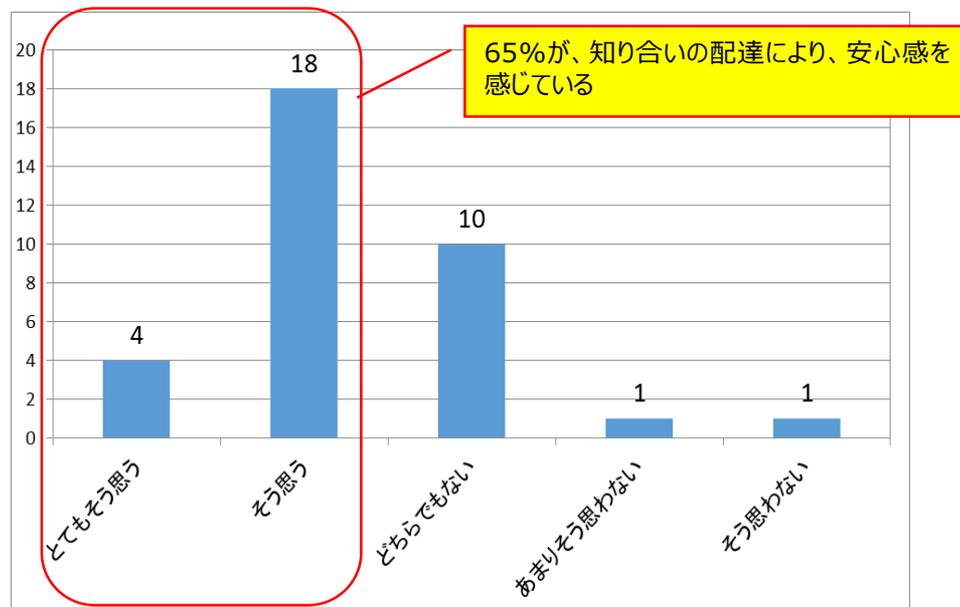
- ・調査期間中の新聞以外の荷物は総数で23個
- ・最も多い日で3個で、0個の日が19日あった。



# 10-1. モニタリング(住民アンケート)調査の状況

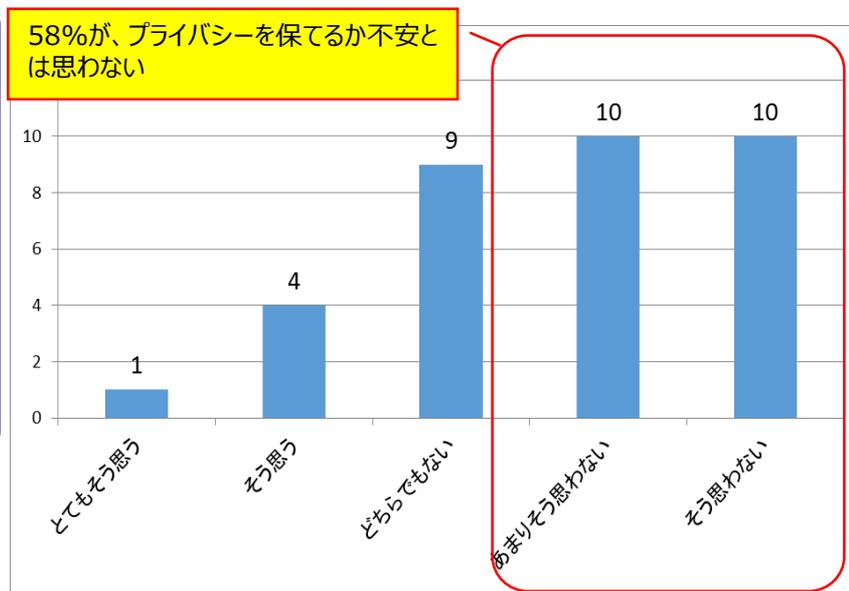
## (1)「知り合いの配達なので安心」について

- 知り合いの配達により、**安心感を感じている**地区居住者が多い。
  - ・「とてもそう思う」と「そう思う」は、合わせて22人（65%）
  - ・「そう思わない」と「あまりそう思わない」は、合わせて2人（6%）



## (2)「プライバシーを保てるか不安」について

- プライバシーを保てるか**不安と思う**地区居住者は少ない。
  - ・「そう思わない」と「あまりそう思わない」は、合わせて20人（58%）
  - ・「とてもそう思う」と「そう思う」は、合わせて5人（15%）



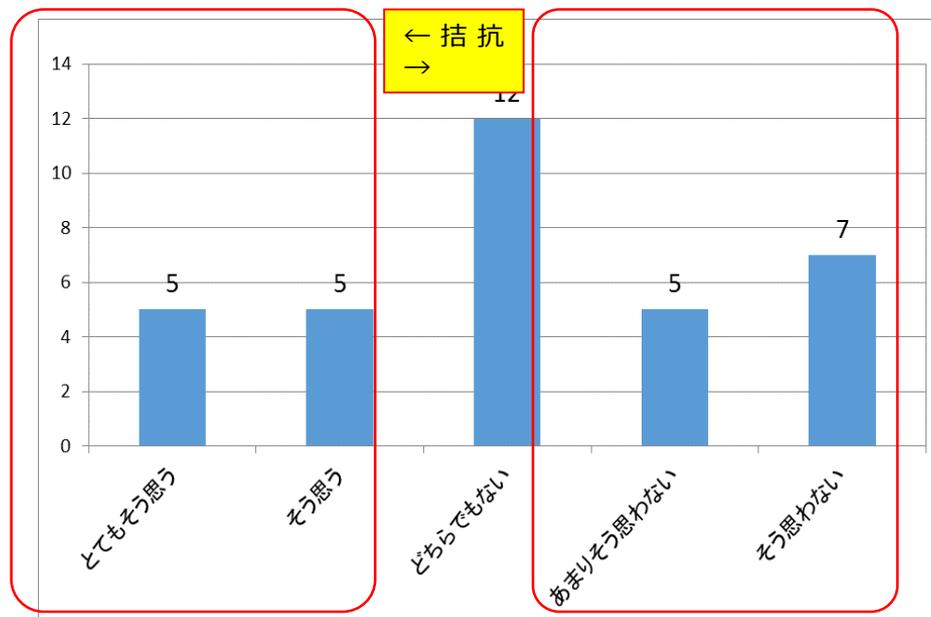
## 10-2. モニタリング(住民アンケート)調査の状況

### (3)「商品管理が保てるか不安」について

#### ●安心と不安が拮抗

- ・「そう思わない」と「あまりそう思わない」は、合わせて12人(35%)
- ・「とてもそう思う」と「そう思う」は合わせて、10人(30%)

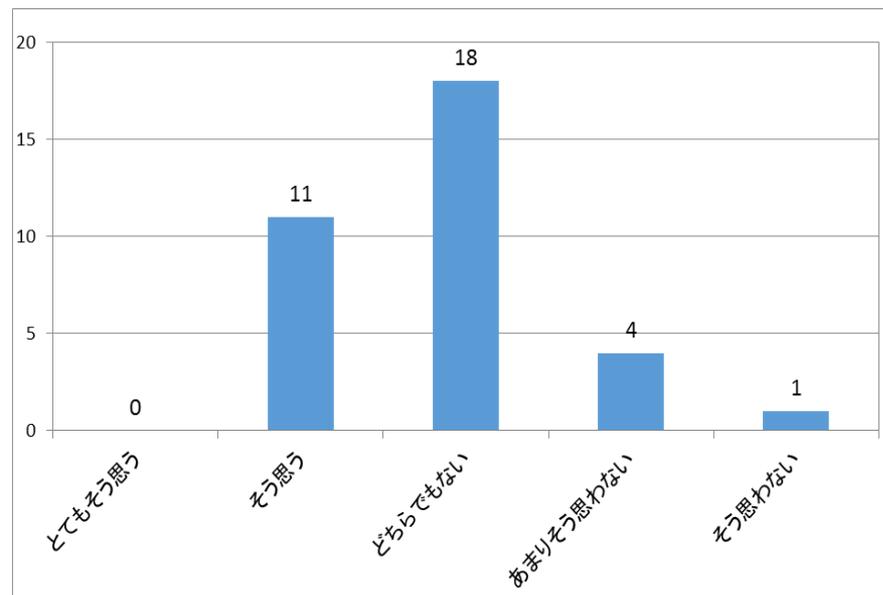
- 一番回答が多かったのは「どちらでもない」の12人(35%)であり、今後の実績次第で、「品質管理が保てるか不安」と思わない地区居住者は増加すると推測



### (4)「気軽に荷物を村所へ出せると思う」について

- 一番回答が多かったのは「どちらでもない」の18人(53%)であり、運用次第で、「気軽に荷物を村所へ出せると思う」地区居住者が増加すると推測

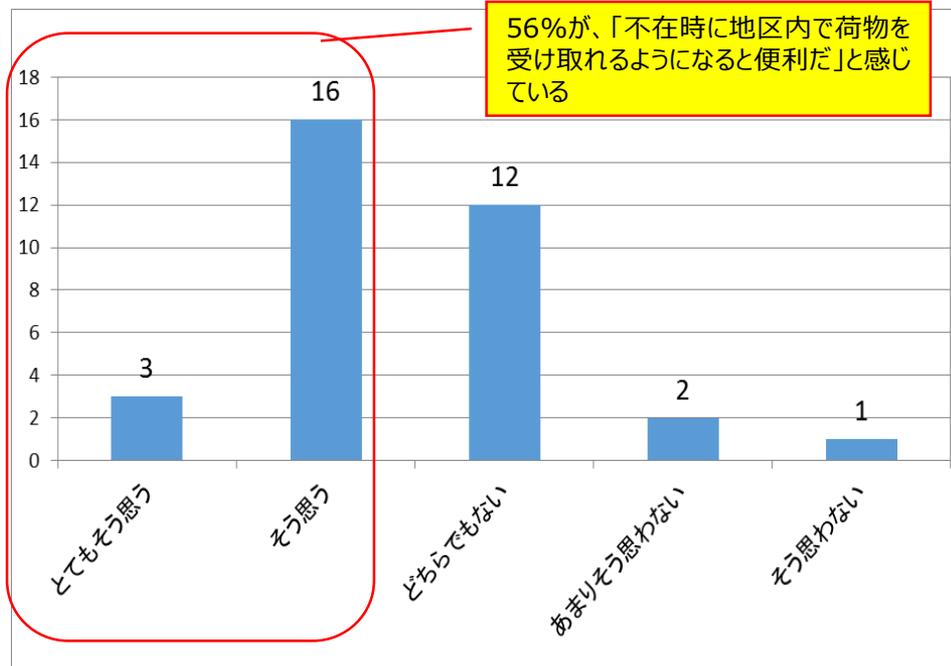
- ・「とてもそう思う」と「そう思う」は、合わせて11人(32%)
- ・「そう思わない」と「あまりそう思わない」は、合わせて5人(15%)



# 10-3. モニタリング(住民アンケート)調査の状況

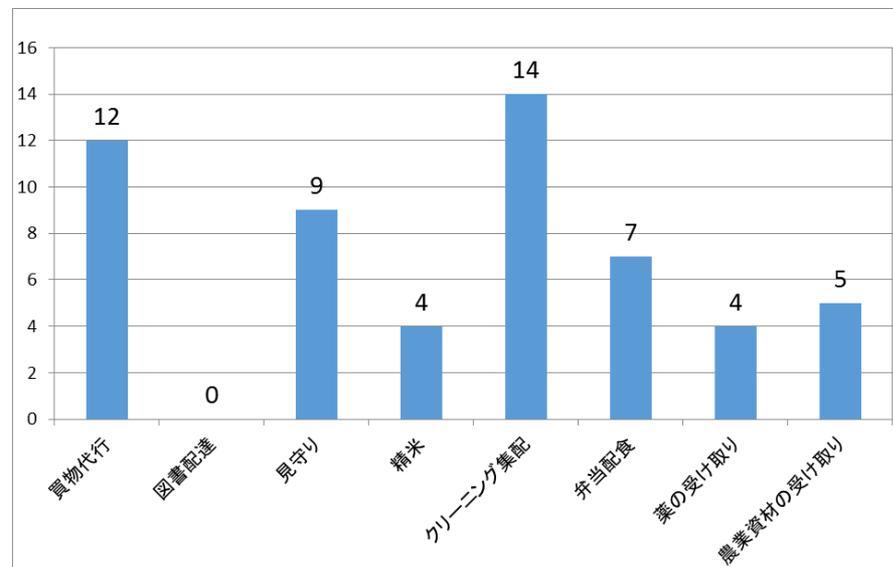
## (5)「不在時に地区内で荷物を受け取れるようになると便利だ」について

- 「不在時に地区内で荷物を受け取れるようになると便利だ」と感じている地区居住者が多い。
  - ・「とてもそう思う」と「そう思う」は、合わせて19人(56%)
  - ・「そう思わない」と「あまりそう思わない」は、合わせて3人(9%)
- 「どちらでもない」との回答者が12人(35%)あり、**運用次第**で、「不在時に地区内で荷物を受け取れるようになると便利だ」と感じる地区居住者が**増加すると推測**



## (6)おがわ作小屋(ホイホイ便)に期待するサービス

- 上位3位  
「クリーニング配達」：14人  
「買物代行」：12人  
「見守り」：9人
- ※小川地区では民間のクリーニング集配サービスが平成24年頃からなくなっている。



# 11. 実証実験の課題整理

## 集落拠点（おがわ作小屋村）の意見

### (1) 人手不足の課題

- 現状の作小屋村は職員が限られているため、ホイホイ便を運行すると**職員の業務負担が増加**する可能性がある。また、作小屋村職員が忙しい時や配送する荷物の量・頻度が増えた場合に、「配達時間が遅れる」、「集荷に行けない」、「配達以外のサービスが出来ない」など、**サービス水準を維持出来ないことが懸念**される。そのため、**新規の雇用を検討**し、職員の負担軽減とサービス水準の維持を図る必要がある。

### (2) 制度上の課題

- ホイホイ便を運行する上で**配達物と軽貨物車両を管理する責任の所在**と着払い・メール便・クール便等の**多様な配達サービスのうち、作小屋村で対応できる範囲**が明確になっていないため、検討を行う必要がある。

### (3) 既存サービスとの兼ね合い

- 現在、住民に馴染みのある**郵便配達員が行う業務をどのようにホイホイ便に移行**させるか検討が必要である。

## 利用者（住民・中心拠点関係者）の意見

### (1) 住民の意見

- 住民にとってホイホイ便を利用することで**作小屋村の負担が増えるという思い**があるほか、これで**馴染みの郵便配達員に頼んでいた事が出来なくなる不安**がある。そのため、作小屋村職員に負担を掛けない仕組み作りと、住民への周知が必要である。

### (2) 既存サービスの浸透

- 現在は買い物やクリーニング、農業資材配達、見守り等が**地域の方の好意**で行われているものの、今後**継続的に行うためにサービスの制度化**を検討する必要がある。

### (3) 業者間でのホイホイ便活用

- 村所驛物産館と作小屋の間で定期的な荷物のやり取り**が行われている。そのため、荷物のやり取りをホイホイ便に移行する可能性が考えられる。また、生産拠点から販売拠点への荷物の輸送に有効である。

毎朝、新聞が読めるのはいいね！



# 12. ホイホイ便プロジェクトの今後の課題と対応策等

各種調査結果から、課題（論点）及び今後の対応策を以下のとおり整理

項目	課題（論点）	対応方法
配達・集荷方法	「村所驛」と「おがわ作小屋」の各拠点での、異なる運送業者の扱いとなる荷物の管理	<b>共同配送の仕組みの導入</b> により、荷物の受け渡し方法の確立。（宅配事業者との協議）
配達・集荷体制	現行の作小屋の体制だけでは、人手が不足し配達が困難	新たな雇用・支援体制構築により <b>集落主導（西米良村支援）の受託体制構築</b> （委託費用の協議等）
宅配事業の許認可	村営バス（白ナンバー）での少量小荷物の有償運送は出来ない。	<b>地域再生土地利用計画の策定</b> により内閣府認定を受ける必要がある。末端輸送の実施には、 <b>軽貨物事業者の登録</b> で既に対応済
住民ニーズへの柔軟な対応	住民ニーズの高い薬の配達、クリーニング、精米、買い物支援、見守り等のサービス	法律改正が伴う事項については、その経過を見守り、 <b>車両改良等に対応できる事項についてはその都度改善</b> し、サービスレベルの向上を図る
配達品質	冷蔵・冷凍品の管理	<b>各社で異なる配達基準の調整、車両、配送拠点での冷蔵冷凍施設の段階的整備</b> が必要
配達水準・規定	異なる配達時間、制服、委託での取扱える荷物・代引きサービスの扱い	本格導入に向け、配達基準を調整のために <b>定期的な事業者協議</b> を行う他、 <b>配達世帯との合意形成</b> 。
リスク管理	クレーム、破損、紛失によるリスクの管理	<b>保険によるリスクの移転</b> 、配達員の能力向上に向け、 <b>受託時の教育を事業者</b> に協力依頼

# 13. 「カリコボーズのホイホイ便」プロジェクト今後の方向性

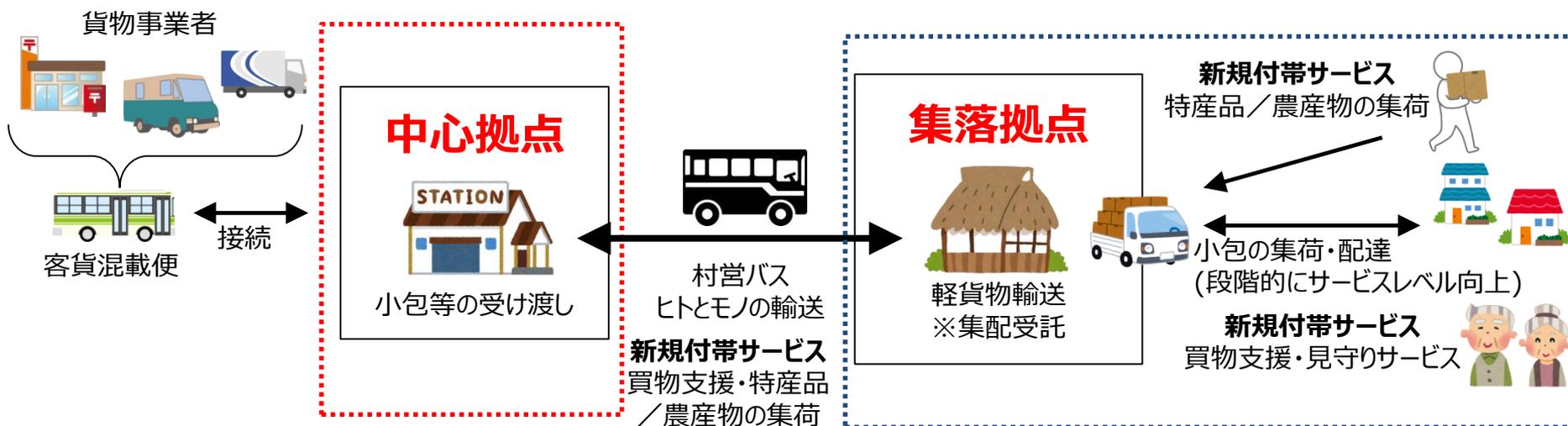
- 幹線輸送（客貨混載）と支線輸送（ヒトとモノの輸送）に分け、**幹線を民間事業者主導、支線を村・集落主導**による新たな運送形態とする。
- 支線輸送の混載は集落の配達体制の状況に応じ**段階的にサービスレベルを整える**。
- 村内便の整備拡充により、**買い物支援、見守り、特産品の集荷等の付帯サービス**を加える。

幹線輸送

民間主導で輸送の効率化を図り、**環境負荷の軽減**を図る

支線輸送

西米良村主導で集落主体の配送体制を確立し、  
村内物流網形成に伴う**付帯サービスの拡充**を図る



従来の宅配とは異なるホイホイ便の設立により、**村内限定の料金設定による買い物支援、特産品の出荷が容易となり**、村内調達率の向上や特産品の集荷による物量増加に伴う経済の好転が期待される。

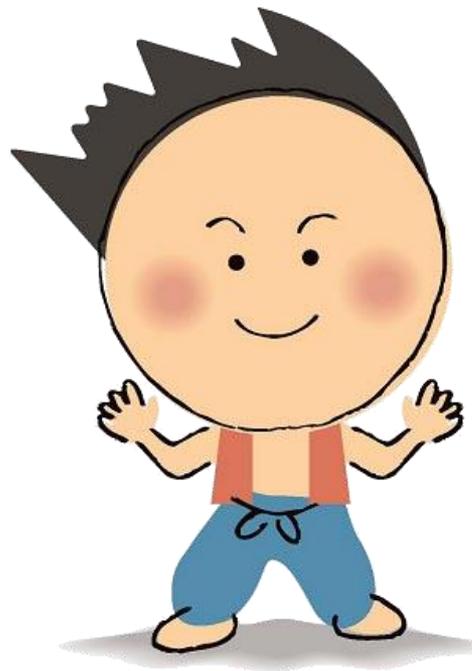
# 14. 「カリコボーズのホイホイ便」の今後のスケジュール

カリコボーズのホイホイ便は事業者間調整、施設整備を経て段階的に配達範囲の拡充を目指す。

項目	28年度	29年度
<b>Phase1</b> 村内便の宅配開始 (新聞や特産品／農産物等)	■	
宅配事業者間調整 (制服、品質、水準等)	■	
<b>Phase2</b> 小包の共同宅配開始 (委託準備が調った事業者から 随時受託)		■
小さな拠点の整備拡充 (冷凍冷蔵施設の整備)	■	
<b>Phase3</b> 冷蔵冷凍便の共同宅配開始 (委託準備が調った事業者から 随時受託)		■

※住民サービスを満たすため、村内便、買い物支援サービス、見守りサービス等については、村内他事業との連携を積極的に行う。

ご静聴ありがとうございました



カリコボーズの休暇村・米良の庄  
宮崎県 西米良村